

宇治支援学校の言葉

ウジシエンガッコウのことば

平成25年度 No.3 12/20発行

京都府立宇治支援学校

〒611-0031 京都府宇治市広野町丸山10
TEL 0774-41-3701 / FAX 0774-45-2220

2学期を終えて ～広がる喜び～

短く過ぎ去った秋の気配から、師走へと季節は移り、2学期を終えることとなりました。

いつも宇治支援学校の教育に御理解と御支援をいただきありがとうございます。

2学期は、「実りの秋」でもあり、日頃の学習で育んだ力を発揮し、それを保護者の方や御家族の方、地域の方などたくさんの人達に見ていただく機会もたくさんありました。

3回目を迎えた総合文化祭「うじ えん-JOY フェスタ」、一年一年、全校の子どもたちや教職員がしっかりと活動しつつ、楽しむことができる行事となってきたように感じています。子どもたちは、それぞれに日頃の学習の様子を、その成果を堂々と発揮していました。

今年度も、お隣の「ひろの幼稚園」のかわいい園児の皆さんもたくさんやって来て、一緒に鑑賞したり、本校の子どもたちと声を掛け合うなどの交流がありました。お隣同士というお付き合いがこれからも広がっていければうれしく思っています。

また、今年度は、宇治中学校の吹奏楽部の生徒の皆さんに演奏発表をしていただきました。ご存じの方も多いと思いますが、宇治中学校の吹奏楽部は、「今年もマーチングで日本一！」なんです。その迫力ある生演奏を間近で聴くことができました。残念ながら、スペースの関係から糸乱れぬ華麗なマーチングは見ることができませんでしたが、子どもたちにとって、身近な仲間の一生懸命な姿に共感するとともに、感動しました。

こうした地域の仲間との交流は、宇治市の特別支援学級の子どもたちとの「宇治市特別支援小・中交流会」や「学校間交流」という形で行っています。「小・中交流会」は、太陽ヶ丘に一同に会し、ともに発表し合い、活動し合う絶好の機会となっていました。本校の子どもたちのことを知ってもらえる、私達も地域の子どものことを知る機会ともなりました。

また、「学校間交流」では、小学部4年生がお隣の久保小学校の4年生と交流しました。お互いに事前の学習をして、当日を迎え、久保小学校の子どもたちが本校の仲間の好きな遊びなどを作り、一緒に遊びをとおして活動し、互いのいいところを見つけ、知ることができました。他にも、子どもの居住地域にある学校との「居住地校交流」も実施しています。

こうした交流は「交流及び共同学習」と呼び、小学校や中学校、高等学校と特別支援学校との交流は、障害のある人となない人が理解し合い、尊重し合い、ともに支え合って暮らせる「共生社会」の実現に向けて大切であるとされおり、本校としても積極的に取り組んでいるところです。御理解の程、よろしく申し上げます。

冬休みは、風邪や胃腸をこわす病気が流行する季節でもあります。健康管理には十分に留意していただき、楽しく冬休みを過ごし、元気によいお年を迎えてください。

3学期の始業式、元気な子どもたちの姿を楽しみにしています。



大久保小学校との交流



宇治中学校 吹奏楽部の演奏

校長 澤田 均



各学部より

小学部

小学部では、1学期は主に校内でつけてきた力を、2学期には校外に広げていく学習を進めてきました。各学年、校外学習を含めた単元学習に取り組み、また、4年生は、大久保小学校の4年生と学校間交流にはじめて取り組みました。交流及び共同学習は、お互いの子どもたちのふれあいを通じて豊かな人間性を育むことをねらいとして進められている学習です。はじめの会では大久保小学校の4年生から「同じ地域に住んでいて、同じ地域で学習をしていて知らないなんておかしい！お互いに声がかかけあえる友だちになりましょう」と挨拶がありました。全体で、お互いにダンスや笛の演奏を発表し、一緒に歌を歌いました。本校の児童が1名ずつ大久保小学校の子どもたちのグループに入り、事前に相談して考えた遊びを互いに楽しみました。おわりの会では「ゲーム楽しかった」「○○君と遊んだー」とたくさんの感想を交流し合いました。



中学部

中学部では、地域の資源を活用した取組を行っています。1年生は宇治市中央図書館に行って図書館の仕組みについて学ぶとともに、一人数冊の本を借りて帰りました。2年生は京都の名所を調べて紹介するために、実際に京都水族館や京都太秦映画村に出かけて行って取材し、発表しました。3年生はうじ えん-JOYフェスタで、宇治市のゆるキャラである「チャチャ王国のおうじちゃま」を迎えて宇治茶PRとお茶会を行いました。また、中学部1～4組もそれぞれの学年と一緒にうじ えん-JOYフェスタの取組に参加し、紙すき実演や写真撮影、お茶会などで来校者と交流しました。これからも自立と社会参加に向けた様々な取組を、地域性を活かし、友だちと協力しあって進めていきたいと考えています。



高等部

地域に飛び出し、自分たちの持てる力でチャレンジする。そんな雰囲気がか校内にどんどん生まれてきました。近隣の公園、JR駅周辺、西宇治体育館に出向いて、落ち葉を集めたり、大きな窓を拭いたり、きれいな町づくりや気持ちの良い空間づくりに役立てるよう取り組んできました。地元自治会の方や利用者の方から声をかけていただき、互いに気持ち良くふれあうことができ、互いに喜びを感じ合えました。

また、窯業新製品「花鉢」は、くらし健康・地域・職業コース生徒のコラボ製品です。互いの力を合わせた趣のある製品が仕上がっています。



SSC

京都府スーパーサポートセンターには、京都府内の特別支援教育を「つなぎ、ささえ、つつみこむ」役割があります。今回は、府立学校のコーディネーターの先生達と連携している取組の一部を紹介します。

「地域支援コーディネーター研究協議会」

府内の各特別支援学校11校には、宇治支援学校に設置している「地域支援センターうじ」と同じように、対象の地域を支援する地域支援センターがあります。京都府スーパーサポートセンターは、各地域で活躍している「地域支援コーディネーター」が一堂に会する「地域支援コーディネーター研究協議会」を年4回開催しています。府内各地で困っている子ども達や先生・保護者の方々に対応するため、最新の知見を得る研修や、支援がうまく進んだ取組など情報交換しています。

「府立学校特別支援教育コーディネーター研修会」

高等学校でも、発達障害等で悩む高校生や、どのように支援したらよいか悩んでいる先生や保護者の方々がいます。京都府スーパーサポートセンターは、「府立学校特別支援教育コーディネーター研修会」を年1回開催し、生徒支援に役立つ研修や取組事例の交流等を行っています。

各学校のコーディネーターの先生達が互いにつながりながら、府内全域の支援が進むよう、取組を進めています。